私たちの愛の喜劇

truth

~姦しき弔いの果て~





同じ男性を愛した3人の女性が彼の葬儀の夜に鉢合わせ。

己のプライドを賭けて壮絶な舌戦を繰り広げます。そこまで言う!? という明け透けな内容に笑うしかありません。でも単なる女豹バトルではなく、そこに真実の愛がキラリ。

原案・監督は名匠・堤幸彦。映画監督 作50作めのメモリアル作品はなんと 初めての自主制作映画。

1988年に『バカヤロー!私、怒ってます「英語がなんだ!」』で映画監督デビューしてから2022年で34年。それまで撮った49作の中には10年以上続いたシリーズ(『「SPEC」サーガ』、『トリック』)や制作費60億円の超大作(『20世紀少年』三部作)やベストセラー小説の実写化等々……メジャーレーベルで話題作を次々と生み出してきた堤監督が65歳(※公開時66歳ですが)にして自主制作。還暦と古希の間(あいだ)の伊達や酔狂? いえいえそんなことはありません。自主制作だからこそ様々な制約をスルーして赤裸々な女性の真実に迫ることができたのです。

きっかけはコロナ禍。

提監督自身も撮影中断を経験しています。堤だけでなく、 仕事仲間たちの撮影や公演も中断、中止になりました。その中で俳優・広山詞葉が文化庁の「文化芸術活動の継続支援事業」に申請しようと自主的に作品づくりをすべく 仲間を募っていました。堤は、日頃、自作に尽力してくれている仲間たちの企画に参加することを決意。脚本、撮影、音楽等、一流のクリエーターが集まり、名優・佐藤二朗も参加(忖度だけど)。女性の本音満載の贅沢な自主制作映画ができました。

『truth~姦しき弔いの果て~』。

ただただ姦しいだけではなく、昨今、話題の「精子バンク」 に着目しています。社会問題を笑いでくるみ、あけすけな のに下品じゃなくて、人間愛に溢れ洒落ていて。女性たち のみならず人類の生きる強さを謳い上げた今の世にふさ わしい、小品のようで、じつは大作感あふれる50作目なの です。

Text:木俣冬(堤幸彦研究家)











■「truth〜姦しき弔いの果て〜」 / 2022年 / 日本 / カラー / 72分 /ビスタサイズ/ ステレオ/ © 2021映画「truth〜姦しき弔いの果て〜」パートナーズ https://www.truth-film-japan.com/ 公式twitter: @truth_FilmJapan 公式Instagram: @truth_movie0107







池袋シネマ・ロサ 03-3986-3713 www.cinemarosa.net UPLINK 吉祥寺
0422(66)5042 joji@uplink.co.jp

他全国順次公開!